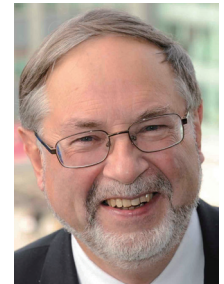


講演者プロフィール

ロドリック・スミス インペリアル・カレッジ・ロンドン名誉教授

インペリアル・カレッジ・ロンドンの名誉教授で、同大学未来鉄道研究センターの議長を務め、ウェールズのインフラ・コミッショナーにも就任しており、かつて英国運輸省の首席科学アドバイザーを務めたこともある。加えて、オックスフォード大学の客員教授、中国中車のアカデミー会員であり、英国機械技術者協会の元会長でもある。1980年～1988年にケンブリッジ大学工学部で講師を務めた後、1988年～2000年にシェフィールド大学で機械・プロセス工学の教授を務め、このうち1992年～1995年の間は学部長を務めた。また、2000年～2005年には、インペリアル・カレッジで機械工学部の学部長を務めた。1987年～1990年、英国鉄鋼社技術部へのコンサル業務を行い、英国の健康安全庁(HSE)のヒルズボロの群衆事故に関する調査支援に携わったほか、1992年～1996年には英国鉄道会議(BRB)に属し、数々の訴訟事件で法廷鑑定人を務めた。近年では、欧州連合(EU)のShift2Rail施策の外部補佐人を務めた。さらに、日本でも大学、鉄道機関やメーカーと活動している。同教授は、幅広く出版しており、頻繁に国際会議などの講演にも招かれ、英国における高速鉄道システムの建設の擁護者となっている。



ブリジェシュ・ディグジット インド 国家高速鉄道公社 部長

車両メンテナンス、運行、技術的な改良のほぼすべてに精通しており、2017年9月に、国営高速鉄道公社(ニューデリー)の部長に就任した。就任以降、インド高速鉄道プロジェクト(ムンバイ～アーメダバード)の車両工場と点検機器とのパッケージ契約に関する詳細設計や入札図書 of 最終責任者を務めるとともに、運行やメンテナンスの各フェーズにおける計画策定の責任者も務めた。

同社への入社以前は、鉄道省 鉄道委員会 機械工学(旅客車両)の責任者を務め、技術・運行・メンテナンスを担当し、旅客車両に関する多くの政策を提案した。車両機器の状態をモニターする計測技術の手法と車両への搭載を提案するとともに、予見的なメンテナンスを実施できる状態に徐々に移行させるなど、旅客車両のメンテナンスと運用に関するシステムのスムーズな導入に尽力した。

2015年～2016年、フルブライト・プログラム奨学生として米国のマサチューセッツ工科大学、テクノロジー政策管理学科を修学しており、在りし日のジョー・サスマン(Joe Sussman)教授が主催し、日本で新幹線の運行やメンテナンスを手掛けるJR職員も在籍していた高速鉄道研究グループに所属されていた。カーンプルにあるインド工科大学の機械(熱学)工学科の修士号を取得し、同大学を卒業している。



陳 強 台湾高速鉄路有限公司 執行副總經理

20年以上にわたり列車の運行・メンテナンス(O&M)の分野で経験を培ってきた。

1997年～1999年に台北捷運公司情報システム部門長、1999年～2003年には鉄道運行部門長、2003年～2007年には木柵線部門長等の要職を歴任した後、2007年～2010年に台湾高速鉄道有限公司鉄道運行長付秘書、2010年～2014年に副社長補佐、2014年～2017年に鉄道運行部局の最高執行責任者を務め、2017年より台湾高速鉄道有限公司最高執行責任者を経て、2018年より現職。O&Mの管理に責任を有する立場にあり、鉄道のO&Mに関する様々な専門的技術に加え、土木工学やコンピュータ科学という分野の専門的技術にも精通している。



最明 仁 東日本旅客鉄道株式会社 常務執行役員 国際事業本部担当

1985年に日本国有鉄道に入社。1987年の国鉄分割民営化により東日本旅客鉄道株式会社に入社。以来、鉄道営業、旅客サービス、輸送計画、旅行業、観光振興などを担う。オリエントエクスプレス日本国内運行の統括、2002年FIFAワールドカップ輸送対策本部責任者など大規模イベントでの安全かつ安定した輸送サービスの提供を行ったほか、JNTOシドニー事務所次長、(株)びゅうワールド取締役企画部長兼JR東日本訪日旅行手配センター所長としてインバウンド施策にも精通している。湘南新宿ライン開設、新幹線・在来線各線区の輸送改善、販売促進、宣伝活動にも携わり、新潟支社営業部長、総合企画本部経営企画部次長、同本部観光戦略室長、ニューヨーク事務所長、総合企画本部国際業務部長、執行役員 総合企画本部国際業務部長のポストを歴任し、2018年6月、常務執行役員 国際事業本部担当に就任。



内田 吉彦 東海旅客鉄道株式会社 執行役員 中央新幹線推進本部 副本部長

1989年4月東海旅客鉄道(株)入社。以来、土木分野を専門に鉄道建設等に携わる。2003年～2005年静岡支社工務部施設課長、2005年～2007年総合企画本部投資計画部担当課長、2007年～2009年新幹線鉄道事業本部施設部管理課長、2009年～2011年新幹線鉄道事業本部静岡施設事務所長を歴任。2011年以降は中央新幹線推進本部中央新幹線建設部次長等として超電導リニアによる中央新幹線プロジェクトに携わり、2018年6月より現職。現職では、中央新幹線建設の環境保全に関する業務も担当しており、総合土木技術誌「土木施工」2018年10月号に「中央新幹線(東京都・名古屋市間)の環境影響評価および環境保全の取組み」を寄稿している。



モデレーター プロフィール

山内 弘隆 一般財団法人 運輸総合研究所 所長 / 一橋大学大学院 経営管理研究科 教授

中京大学 商学部及び経済学部専任講師を経て、1991年より一橋大学商学部専任講師、2000年より一橋大学大学院 商学研究科教授を務め、現在は同大学院 経営管理研究科の教授である。この間、2001年～2002年には、米国メリーランド大学ロバート・スミス・ビジネススクールにて在外研究を行い、2005年から2008年まで一橋大学大学院 商学研究科研究科長 兼 商学部長の職にあった。2016年より(一財)運輸総合研究所の所長に就任している。

最近の研究上の関心は、交通、エネルギー、情報通信、放送等の産業分析、公的関与のあり方に関する政策分析にある。特に、この分野における競争導入の成果や料金、価格規制を中心に研究を進めている。また、インフラストラクチャー整備の民間参画と資金調達、費用負担のあり方問題、PFI/PPP等の手法の理論的検証及び実践的研究なども取り組んでおり、観光分野における政策形成とその調査にも取り組んでいる。なお、2016年に総務大臣表彰、交通文化賞を受賞など多くの受賞歴があり、著書に『運輸・交通インフラと民間活用 PPP/PFIのファイナンスとガバナンス』などがある。

